

はじめに

企業と社会フォーラム (JFBS) 学会誌第6号は、「社会的課題とマーケティング」をテーマとした第6回年次大会での議論を踏まえその後の研究成果をとりまとめ、さらに投稿論文・企業事例を加え構成されている。今号も発行に当たっては千倉書房に大変お世話になった。記して感謝の意を表したい。

地域社会や国際社会におけるさまざまな社会的課題の解決に向けて、新しいビジネスモデルが生み出されたり、マーケティングの方法が試みられたりしている。しかし実務面においても研究面においても、社会的課題の解決につながるビジネスモデルのあり方やマーケティングについての議論は、まだ十分になされているとは言えない。例えばソーシャル・プロダクトの開発、それを購入しようとする消費者の意識や行動の理解、ソーシャル・マーケティングの開発、Green Marketとも言われる新しい市場をどのように創り出していくか。こういった議論を行うことが今求められている。新しい取り組みの成果を踏まえ、今後スケールアップしていったり、イノベーションへのヒントとなることが期待される。

企業と社会フォーラム第6回年次大会はこういったテーマのもと、2016年9月8日(木)、9日(金)の2日間にわたり早稲田大学にて開催された。今回は日本マーケティング学会の協力を得ることができた。今後も学会連携のスタイルを広げられることが期待される。大会には日本のみならず、イギリス、インド、インドネシア、カナダ、タイ、台湾、ドイツ、ニュージーランド、バングラディシュから多くの参加者が集まった。学界、産業界、労働界、NPO/NGOなど各セクターから多面的な議論が繰り広げられた。

大会はDirk Mattenヨーク大学教授およびFulvio Guarneriユニバーバ・ジャパン・カスタマー・マーケティング代表取締役社長による基調講演、それに引き続いての全体セッションから始まり、企画セッションでは「都市開発とイノベティブ・マーケティング」、「持続可能性とイノベティブ・マーケティング」、「社会的課題とイノベティブ・マーケティング」、「地方創生とイノベティブ・マーケティング」をテーマに、さまざまな業種の企業および団体による具体的な取り組みを踏まえパネルディスカッションが行われた。

また自由論題報告セッションでは“CSR in South-East Asia”, “日本企業のガバナンス”, “Social Marketing”, “CSR and Finance”, “Social Business”, “CSR Management”などのセッションに分かれて、全部で17本の研究報告・ケース報告がなされ、活発な議論・交流が行われた。

本大会ではGabriel Eweje (Associate Professor, Massey University, New Zealand), 福川恭子 (Senior Lecturer, University of Bradford, UK), 今津秀紀 (凸版印刷部長), Dirk Matten (Professor, The Schulich School of Business, York University, Canada), 大平修司 (千葉商科大学准教授), 谷本寛治 (早稲田大学教授) がプログラム委員会を構成し、大会プログラムの立案、自由論題報告およびDoctoral Workshopのプロポーザルの審査、企画セッションの司会などを担当した。

本学会誌にはこの年次大会のテーマに関する「イントロダクション」、「招待論文」2本、「投稿論文 (企業事例を含む)」4本が収められている。投稿論文に関してはJFBS編集委員会 (委員長 國

部克彦神戸大学教授)による審査(double-blind review)が行われ、今回投稿された5本の論文のうち4本が最終的に掲載に至ることとなった。今後ますます投稿論文が増えていくことを期待したい。

2017年9月の第7回年次大会においては、「サステナブル・エンタープライズ：企業の持続性と社会性」(Sustainable Enterprise: Revisiting an Enterprise Concept)をテーマとして議論を行う。持続可能な企業のあり方について、これまでの伝統的な企業観を問い直し、企業と社会にかかわる新しい問題と課題について理論的、実務的に議論していく予定である(詳しくはJFBSのウェブサイトを参照 <http://j-fbs.jp/>)。多くの研究者、実務家の積極的な参加、議論を期待している。

2017年5月

企業と社会フォーラム会長
早稲田大学商学大学院商学部教授
谷本 寛治